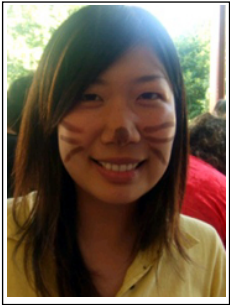


履歴書

2012 年 11 月 26 日現在



ふりがな			ひらい			ことね		
氏 名								
平井 琴音								
出身地				年齢			※	
東京				(満 25 歳)			男 ・ 女	
参加した NICE ボランティア				分野				
①アイスランド ②スペイン ③真木				環境				
場所		①ビルドゥダルル (Bildudalur) ②アストゥリアス地方カンボ・デ・カソ (Campo de						満足度
(国・市町村まで記入)		Caso, Asturias) ③長野県北安曇郡小谷村 (おたりむら) 真木 (まき)						
受け入れ団体		①Seeds ②不明 ③共働学舎						活動のやりがい度
								①70% ②80%

こんなボランティアでした	
①山の斜面の茂みを刈り、ハイキング道をつくる。池を掘る。絵本を翻訳。Web サイトで活動紹介。	
②山中の水道周辺、小学校の裏、川にかかる橋の草刈り。町の子供たちとオリエンテーリング。	
③畑や電柱周りの雪かき。織物や竹細工、陶芸の内職体験。暖房は囲炉裏のみの古民家に宿泊。	

年齢	経歴
18	筑波大学比較文化学類 入学
20	ワークキャンプ (アイスランド・2 週間) に参加
21	ワークキャンプ (スペイン・3 週間) に参加
22	ワークキャンプ (真木・10 日間) に参加
〃	大学卒業、東京で民間企業に就職
23	週末ワークキャンプ (京都・和束) に参加
24	週末ワークキャンプ (愛知・猿投) に参加
〃	企業を退職、仙台へ移住し復興支援活動に携わる
趣味・特技	旅行、写真の整理、読書 (小説)、バレーボール
座右の銘	強くなくては生きられない、優しくなくては生きている資格がない
参加までの旅行経験・ボランティア経験	
ボランティア経験はそれまで皆無。	
中学・高校の学校行事で、オーストラリア・ベトナム・中国は訪問経験あり。	
大学 1 年時にカンボジア旅行。	

記入上の注意 1：鉛筆以外の黒または青の筆記具で記入。2：数字はアラビア数字で、文字はくずさず正確に書く。
3：※印のところは、該当するものを○で囲む。

志望動機

大学での留学説明会に行ってみたら、ワークキャンプをしている団体（NICE とは別）からの紹介もあり、スライドでの説明を見て、一度に複数の国の友人と共同作業ができるというところに魅かれた。ピンときた。どこか外国に飛び込んで、圧倒的少数派になるとか、常に相手国と自分という2項対立で物事を捉えるのは、自分の望む国際交流とは違うと思っていたから。いろんな人がいて、しかもボランティア作業に携わるという使命感を共有するなんて、間違いなく楽しいと思った。そして、学生時代に海外に行くのに、旅行や留学なんて大勢やってるからつまらない、もっと特別なことしたい→ボランティア！となった。

行くまでに心配だったこと（どう乗り越えたか）

- 現地集合。全然知らない海外のことだし、前日入りは当然だろうと。そうすると、宿泊の確保もしないといけない。欧米はカード社会なので、そういうときに自分名義のクレジットカードが必要だけど当時は持っていなかったり。最初のときは集合場所がホステルだったので宿を探す手間がなくて良かった。
- 英語力不足。これはもうひたすら耐えて、キャンプメンバーと接し続けて乗り越える。

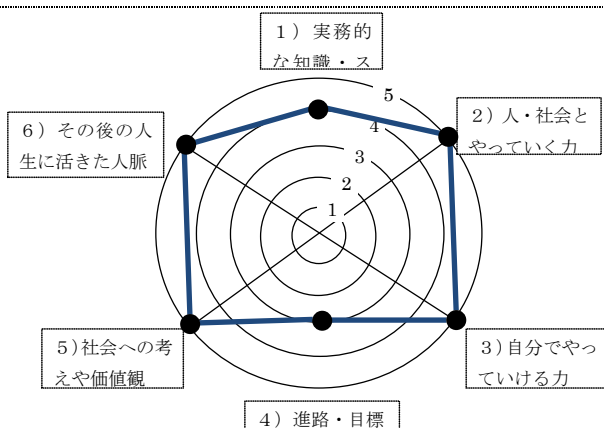
家族・友人・学校・職場の反応（私はこうやって説得した!）

家族にはいつも、自分の中で決意して初めて話すので、（アイスランドということに）少なからず驚かれたと思うけれどあまり覚えてない。友人も、別のワークキャンプに挑戦する子が身近に2人いたのと、事前情報が少なすぎるので、ワークキャンプを知らない友人にはあまり説明もせず行った。

ワークキャンプとその後の人生（進路決定、参加経験が役立っていること等）

ワークキャンプへの参加経験は、その後のものの考え方や人との接し方に大きく影響している。でも、普通に就活して、苦労して、新卒での就職先にはひとまず関係しなかった。そうしたら社会人一年目に東日本大震災が起きた。東京の混乱が落ち着くと、それ以前と変わらぬ仕事を全うすることを求められる中で、被災地に駆け付けて役に立てないことがとてつもなく残念だった。ボランティアの場を求めて自分から行動してきたのに、本当に人の力が必要とされているときに動けないなんて。国内の事なのに。東北はゆかりも土地勘もない地域だったけど、ワークキャンプを経験したから、飛び込めると思った。そういう度胸が養われていたのは確実。復興のために働く手段を見つけて、転職した。

成長ダイアグラム ※



これから参加を考えている人へ、熱いメッセージを♪

ワークキャンプに魅かれて行ってみて、こういう活動を知れて本当に良かったなと思っています。語学力不足でうまく表現できなかったり、文化が違いすぎてみんなが何を考えているのか理解できなかったり。でも24時間ずっと本気で必死だったら、自分の成長やメンバーとの心の結びつきという、本当に大きなものが得られます！ワークキャンプは元々、平和のための活動でもあります。文化が違う者同士が友達になれば、戦争はなくなる。ぜひ実感してみてください！

※成長ダイアグラム（5＝とても得るものがあつた・良くなった。4＝まあまあ得るものがあつた・良くなった。3＝前と変わらなかった。影響なし。2＝前よりもやや劣るようになった・悪くなった。1＝前よりもずっと劣るようになった・悪くなった。）